

2018年（平成30年）度

特定非営利活動法人 子どもの森

総会議案書



第7期四季をまるごと体験ecoスクール

日時：2018年4月22日（日）9時30分～

場所：森の^{もり}学舎^{まなびや}

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
- 5 3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2017年度活動経過報告について
 - II. 、 、 活動決算報告について
 - 10 III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2018年度活動方針（案）について
 - II. 、 、 活動計画書（案）について
 - III. 定款変更
- 15 7. 議長降壇
8. 閉会のことば

お楽しみ会（11：30～）

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成15年7月12日（土）13:00	子どもの森事務所
第2回通常総会	平成16年4月15日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第3回）	平成16年11月19日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第4回通常総会	平成17年5月8日（日）10:00	門川町商工コミュニティセンター APIO
第5回通常総会	平成18年4月22日（土）18:00	門川町中央公民館
第6回通常総会	平成19年5月20日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第7回通常総会	平成20年5月17日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第8回通常総会	平成21年4月25日（土）10:00	森の学舎
第9回通常総会	平成22年4月25日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第10回）	平成22年10月13日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第11回通常総会	平成23年4月24日（日）9:30	森の学舎
第12回通常総会	平成24年4月22日（日）9:30	森の学舎
第13回通常総会	平成25年5月6日（月）9:30	森の学舎
第14回通常総会	平成26年4月27日（日）9:30	森の学舎
第15回通常総会	平成27年4月29日（水/祝）9:30	森の学舎
第16回通常総会	2016年4月29日（金/祝）9:30	森の学舎
第17回通常総会	2017年4月29日（土/祝）9:30	森の学舎

はじめに

《自然の豊かさは5割減》

『Living Planet Report : 生きている地球レポート』が設けている、大きな指標の一つが、地球の生物多様性の劣化を示す「LPI : Living Planet Index (生きている地球指数)」です。

これは、世界各地の陸域、川や湖などの淡水域、海洋に生息する、3,000種以上の野生生物の10,000以上の個体群を調査し、個体数がどれくらい減少したかを基に計算したものです。

この「生きている地球指数」は、1970年時点と比較して、世界平均で52%も低下しています。つまり、地球の自然の豊かさが、それだけ損なわれてきた可能性を示しています。

世界では今、2万種を超える、野生の動物や植物が、深刻な絶滅の危機にさらされていますが、そのことも、この失われゆく地球の自然環境の現状と大きく関係しているといえるでしょう。

こうした環境の悪化の大きな原因となっているのが、人類による地球の「使いすぎ」です。

《収支は大赤字！地球がもう一つ必要に？》

『生きている地球レポート』のもう一つの指数「エコロジカル・フットプリント」では、この人間の自然資源に対する需要と、環境への圧力を示しています。

「エコロジカル・フットプリント」とは、木材などを生産している森林や、魚介類などをもたらす海洋、農場、牧草地といった、現在人類が消費している物を生み出すために必要な、生産性のある「土地」を、架空の面積に置き換えたもの。

ここには、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を、自然の状態で吸収できる土地に相当する面積も含まれています。

この「エコロジカル・フットプリント」を基に、現在の人類による消費の大きさを計算すると、地球1個分の生産量に対して、1.5個分の利用をしていることがわかります。つまり0.5個分、使いすぎている、ということです。

この現在オーバーしている地球0.5個分の消費分は、いわば森や海などでの乱獲や、大量の二酸化炭素を排出することで、未来から「先借り」してしまっているわけです。

これは、地球が本来もっている生産力を超え、原資を食いつぶす形で、人類が消費を拡大し続けている、ということに他なりません。

現在のまま消費の圧力が大きくなり続ければ、2030年には、地球2つ分の資源が必要になる可能性も指摘されています

《国や地域によるちがいがい》

もちろん、こうした消費の大きさや、自然環境への圧力は、国や地域によって異なります。

1人の人間のエコロジカル・フットプリントは、住んでいる国や地域によって、大きく左右されます。使っている製品やサービス、エネルギーの消費量などが、それぞれ異なっているからです。

たとえば、人類すべてが一年間、インドネシアの平均的な市民と同じ生活をするなら、地球の生物生産力の3分の2で十分となります。

しかし、もし全人類がアメリカ合衆国の平均的な市民と同様の生活をするならば、4個分の地球の生産力が必要となります。つまり、環境問題の解決を目指す時には、こうした地域や国による事情、特に貧困などの社会問題をも含めた視野で、国境をこえた協力のもと、取り組みを行なう必要があるのです。

《地球1個分という解決をめざして》

WWFは地球の自然環境を未来に引きついでゆくために、「地球1個分という観点」から、すべての人に食糧・水・エネルギーを保障できるように、より良い選択肢を提示し、その実践を目指しています。

45

WWF (World Wide Fund for Nature) Webより引用

WWF : 世界自然保護基金。世界の野生生物とその生息地を保護するための基金。本部はスイス。

報告事項Ⅰ. 2017年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（川をたのしく親しもう、木と遊ぼう！木に学ぼう！、春（の野草）を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらうための啓発活動ができた。
- ② 県北地域の親子が、11カ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験ecoスクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらう啓発活動ができた。
- 10 ③ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の土日活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- ④ Webページとfacebookにより、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

15 (1) 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

① 野草を活用した自然体験交流：春（の野草）を楽しもう

・実施日：2018年3月25日

・実施場所：森の学舎と周辺地域

・参加者：大人=21人、子供=18人（内小学校就学前幼児8人）

20 ・スタッフ：6人

・講師：成迫平五郎氏（宮崎県環境保全アドバイザー・県北植物愛好会）

・概要：森の学舎のグラウンドと周辺の田んぼや土手で、野草を収穫し名前を覚え調理をして食べて、春の自然の恵みに感謝し自然を大切にすることを育んだ。

・助成等：子どもゆめ基金

25 ・内容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし）

収穫した野草は、「アザミ」「ウバユリ」「オオバコ」「カラスノエンドウ」「コオニタビラコ」「スマレ」「ハコベ」「ツクシ」「ドクダミ」「セイタカワダチソウ」「スズナ」「スズメノエンドウ」「ヨメナ」「レンゲソウ」「スイカズラ」「ヨモギ」「ヤブカンゾウ」「フキ」「ノビル」「セリ」「ナズナ」「ゴギョウ」他。

30 ・準備：（3月24日）野草マップの作成、野草調理の下ごしらえ

② 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

森の学舎のほだ場に本伏せにしているホダ木から椎茸の収穫を行った。収穫した椎茸は、環境学習等のお昼に提供する味噌汁等の食材として利用した。ホダ木は2010年と2011年に、コマ打ち（植菌）したものであり、朽くが進み椎茸の発生が大変少なくなっている。

35

(2) 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

① 子どもの森1号地

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3m以上になっていて、その他種の樹木も人間の背丈よりも高くなっている。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れをおこなっていない。

40

② GOCANの森

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m近くなり、ヤマザクラは花を咲かせている。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れをおこなっていない。

45

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けています。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了したが、元の荒廃した状態に戻らないように、新たに生えてくる竹の伐採を行なった。

・実施日：4月31日～5月6日、（2018年）3月17日

（3）地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

① 四季をまるごと体験e c oスクール（第7期）

・実施日：5月14日、5月28日、6月25日、7月16日、8月11日、9月24日、10月15日、11月12日、
（2018年）2月18日、3月4日 計10日間

・実施場所：森の学舎、e c oスクール麦畑、五十鈴川

・参加者：7家族13人（内小学校4年生～6年生は8人）

・スタッフ：延べ6人

・取材：宮崎日日新聞（5月14日）

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

・概要：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通じた自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し、将来の自然環境の守り手に育てもらうために、11カ月の期間を通して、同じ参加者によるスクール形式で下記のことを実施した。

- 1) ネイチャーゲーム
- 2) 麦刈り・脱穀、稲刈り
- 3) 大豆播き、豆腐づくり
- 4) ダンボールコンポストによる麦畑の堆肥づくり
- 5) イカダを作り川下りによる河川清掃
- 6) 川の生きもの調査
- 7) 昆虫観察
- 8) 海水を使つての塩づくりとニガリ採取
- 9) 麦畑づくり、麦種播き
- 10) 石臼による小麦挽き
- 11) パンづくり（イチゴ酵母とバター作り含む）
- 12) 文集制作

スタッフの準備活動として、各回に実施する内容の準備や後片付け等を下記の通り行なった。

5月27日：大豆蒔きと麦脱穀の準備

6月3日：海水汲み

6月4日：イカダの装飾に使うため竹の切り出し

7月2日、17日：大豆畑の草刈りと藁ひき

7月9日：見本となるイカダ（スタッフ用イカダ）の作成

8月10日：イカダで河川清掃のための河川草刈と試イカダ乗船

10月14日：昆虫観察の下見

11月4日、5日：麦畑づくりの準備

豆腐づくりのために、麦を刈った畑で大豆づくりを試みたが、大豆が実らず収穫ができなかったの
で、市販の大豆を購入して豆腐作りを行なった。

大豆の収穫の代わりに、ビオトープ事業で実施しているミニ田んぼの米収穫を行なった。

1月に牧場体験を計画していたが、受け入れ牧場であった矢北牧場で鳥獣病対策の関係で受け入れ
ができず牧場体験は中止とした。

② 川を活用した自然体験交流（川をたのしく親しもう）

- ・実施日：7月23日
- ・実施場所：森の学舎と五十鈴川
- ・参加者：子ども13人（内幼児6人）、大人15人
- ・スタッフ：8人（内ネイチャーゲームリーダーは3人）
- 5 ・助成等：子どもゆめ基金
- ・概要：親子を対象に、ネイチャーゲームで自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学び、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学んだ。この体験を通して豊かな森と水を含め環境を守るために参加者が自分で出来ることを見つけるためのきっかけづくりができた。
- 10 子どものたちとその保護者が、ネイチャーゲーム（川あそび）と川の生き物調べを通して、豊かできれいな水と、多様な水生動物に触れることで、ふだんの生活では気づくことができなかった自然の大切さを実感でき、きれいな川を守るために必要な自分にできることを考えることができ、自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえる。
- 15 ・内容：オリエンテーション、水に親しむ
ネイチャーゲーム（ジクソーストーン、ミステリーアニマル）
川あそび（ささぶねをながそう、そっ~とのぞいてみよう、みずのおとは？、アメンボウの旅）
お楽しみそうめん流し（昼食）
- 20 ・準備：（7月2日）昨年の台風による増水で壊れてしまった五十鈴川に昇り降りする道の補修。
（7月22日）・素麺流し竹レールの作成（試そうめん流しあり）※4m×4本、長さ微調整、・素麺を湯がくための薪作り（薪割り機使用）※トロ箱3杯、・簡易かまどの設置
※2か所、・川遊びの担当確認と事前体験確認、・フィールド（川）を目で確認できるように上流側と下流側のロープ張り、・必要なものを川へ移動、・フローティングジャケットの用意と更衣所の設置
- 25

③ 森林を活用した自然体験交流（木と遊ぼう！木に学ぼう！）

- ・実施日：12月3日
- ・実施場所：森の学舎
- 30 ・参加者：子ども11人（内幼児4人）、大人8人
- ・スタッフ：5人（指導者含む）
- ・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会
- ・助成等：子どもゆめ基金
- ・概要：樹木の二酸化炭素吸収量を測定し、樹木が二酸化炭素削減に大きな役割を果たしていることを学習した。また、参加者がドングリを自宅で苗木へと育てるために、ドングリの竹ポットを作った。自然における樹木に愛着を持ち樹木の大切さを知ること、自然環境を理解する啓発活動となった。参加者で育てたドングリの苗木は、数年後に地域の山への植樹へと発展させる。
- 35
- ・内容：オリエンテーション、環境学習（樹木の二酸化炭素吸収量測定）
炙り焼きソーセージ作り、ドングリを使つての学習（ドングリクイズとドングリポット）
ドングリ工作
- 40
- ・準備：（11月26日）竹ポットと竹串づくり、環境学習の事前演習

45 (4) 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業
実施できなかった。

(5) 活動の情報発信・啓発のための事業

- ① Webサイトとfacebookの運営
- ・実施時期：4月～2018年3月
- 50 ・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均2回のWebページ更新にて情報

発信した。Facebookへは、年間30回の投稿を行った。

② 機関紙の発行

・発行月：6月（計画では5月）

- 5
- ・概要：子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信14号」をA4サイズ12ページで発行をして情報発信ができた。機関紙は、Webページからもダウンロードできるようにした。

③ 事業案内チラシの作成

10

- ・実施時期：各事業の開催1カ月～3カ月前

・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれの事業や活動の案内チラシや参加者募集チラシを作成した。主に県北の図書館や近隣のスーパー等においてもらった。また、Webページからもダウンロードできるようにした。他の参加者募集の方法として、facebookと地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載をお願いした。e c oスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の全小学校の小学4年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約5000部を配布した。

(6) その他目的を達成するために必要な事業

① みやざきエコフェスティバル2017（7月15日）参加者：横山理事長、横山理事

- 20
- イオンモール宮崎1階ウエストコートで開催された宮崎県環境みやざき推進協議会主催の『みやざきエコフェスティバル2017』に出展した。子どもの森は、ネイチャー工作の「森の妖精づくり」を13:30～17:00に行なった。

② 森の学舎の環境整備

25

- ・4月30日、5月2日、3日、5日～7日

イヌマキとモクセイの剪定（10年ぶり）。※4日間

森の学舎周辺（グラウンド東側法面と道路側）の草刈り。※2日間

e c oスクール準備の麦はさ掛け。

妖精の森での幼竹伐採。

30

- ・6月10日、17日、8月26日、10月8日、9日

グラウンドの草刈

- ・8月14日、15日、16日

簡易炭窯小屋の竹屋根を、e c oスクールのイカダで使ったコンパネに、ビオトープであまった遮水シートを被せた屋根に交換。

35

- あまっている木材で、教室棟の網戸製作。

③ ビオトープ

森の学舎の周辺の水辺では、どんな植物や昆虫などの生き物が生息しているのだろうか？そんな小さな疑問から出発して、グラウンドに人工の水辺環境を作ることになった。

40

《目的・背景となるニーズ》

親子参加による年10回程度の体験型環境学習（四季をまるごと体験e c oスクール）のプログラムの一部として、森の学舎グラウンドで昆虫観察を実施し、畑で麦や大豆を育てているが、昆虫観察（陸上の生物観察）と並行して水辺の生物観察と、麦と並行して米を育てることを環境プログラムや体験型環境学習に取り入れる。水辺の自然環境を学習すること、麦以外の穀物を育てることで、環境学習に厚みを持たせる。

45

《内容》

森の学舎グラウンドの一部に、ミニ田んぼ、水路、池とつながった一連の水辺環境を制作した。森の学舎隣の地区の集会場にある水タンクからオーバーフローしている水を、グラウンドに作ったビオトープに

50

ホースで引いた（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水を注いでいる）。ビオトープのミニ田んぼには米苗を植え、他は人工的に草や虫・魚を持ってこず自然の復元力に委ねる。

《助成》

- 5 全労済地域貢献助成事業助成（活動名：身近な水辺環境づくりと情報発信）を受けた。

本池と調整池、水路にミニ田んぼ、落葉をたい肥にするための落葉置場、蜂のマンション、ビオトープ全体を囲む柵、すべての要素が揃った。試みとしてミニ田んぼに、肥料を与えない状態で、田植えをして、e c oスクールにて稲抜きを実施した。

- 10 ・実施日：4月1日、16日、22日、23日、29日、5月1日、4日、5日、6日、21日、6月4日、18日
7月17日、30日、8月27日

④ 森の学舎の開放

森の学舎の有効活用と地域に森の学舎を知ってもらうことを主目的として、2件の開放が下記の通りあった。

- 15 ・5月5日に一泊で、山の会（4名）に利用してもらった。
・8月5日に一泊で、横山理事の企画により熊本県菊陽町在住の小学生2名に利用してもらった。

3. 寄付金・助成金等

20

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

① 「川をたのしく親しもう」の事業費122.7千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、139.6千円でした。

25 ② 「木と遊ぼう！木に学ぼう！」の事業費89.3千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、107.6千円でした。

③ 「春（の野草）を楽しもう」の事業費88.7千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が27.6千円と81.0千円の助成を受ける予定です。

④ 四季をまるごと体験e c oスクール（第7期）の事業費440.0千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が65.0千円と391.1千円の助成を受ける予定です。

30

(2) 全労済地域貢献助成事業助成

2016年8月から2017年7月までのビオトープ製作（申請活動名：身近な水辺環境づくりと情報発信）の事業費248.2千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額は、247.5千円でした。

35 (3) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、ホームワイド出北店・マックスバリュース南延岡店/岡富店・ホームワイド財光寺店・イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2017年度は、99.0千円の商品券が寄贈されました。

40 (4) ろうきんNPO寄付

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄付先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄付額は100円以上（100円単位）です。お二人の方から計7.2千円の寄付がありました。

45 (5) プルデンシャル生命保険（株）

森づくりフォーラムよりプルデンシャル生命保険（株）が行う「e-約款」等の2016年度同社県別実績に基づく寄付金の寄付先団体として推薦していただき、76.8千円の寄付をいただきました。

(6) 他寄付

50 森の学舎開放のお礼と横山理事長からの寄付金、他にグッズ売り上げで、合計15.5千円の収入があ

りました。

4. その他

5 (1) みやざき森づくりボランティア協議会

横山理事長が理事として、宮崎県内の森づくりボランティア事業の方針方針に関わる予定でしたが、同会の総会の開催日が、子どもの森の事業開催日と同一日となり参加できませんでした。また、理事会においては、そのほとんどが横山理事長との都合が合わず、2017年度は1回のみのお出席に止まりました。

10

(2) 新聞報道等で、子どもの森の活動紹介が、下表の様にありました。

宮崎日日新聞社	四季をまるごと体験ecoスクール (開校)	5月16日掲載
---------	--------------------------	---------

(3) 参加者の声

広く地域に参加者を募集して開催した環境プログラムに参加した方の感想を一部抜粋します。

15

① 川をたのしく親しもう

- ・「川をたのしく親しもう」は、わが家の夏の恒例行事となりました。これに参加しないと夏休みが来ない!?かわあそびもそうめん流しもとても楽しかったです。来年も来れたらいいなあ。
- ・「川をたのしく親しもう」は3度目の参加です。毎年とても楽しみにしている行事です。川へは家族だけで行くことがなかなかできなくて。エビを捕まえたらして子供たちのはしゃぐ笑顔がとても印象的です。親も夢中になりました。
- ・「アメンボウの旅」がとても楽しかったので、またやってみたいです。
- ・昨年も参加したので、子供たちは川やライフジャケット、流しそうめん慣れていて昨年以上に楽しむことができました。

25

② 木と遊ぼう！木に学ぼう！

- ・初めて来ましたが、もっと色々な季節にも来てみたいと思った。環境学習は、なんとなくでも意識するようになる良い機会でした。大人でも楽しめる、そして美味しいイベントでした。
- ・初めて参加しましたが、親子でとても楽しく取り組みました。ソーセージも、とても美味しかったです。じっくり火で焼くと、うまみ倍増ですね、また、娘と参加してみたいです。本日はありがとうございました。
- ・とても楽しい一日が過ごせました。ふだんできない体験ができ、また参加したいです。ありがとうございました。
- ・釜戸ご飯、ソーセージとも、とても美味しかったです。二酸化炭素の学習も、とても分かりやすかったです。他に単発で、バーベキューや花見会があれば参加したいです。そば打ち体験もあれば参加したいです。
- ・初めて参加させていただきました。どんぐりにたくさんの種類があることに驚き、今回自分たちで、どんぐりを育てる機会ができ、2～3年後、こちらに託すことができるのが楽しみとなりました。友だちを誘っての参加、友だちも楽しかったようで良かったです。また、ぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- ・子どもたちが自然に触れたり、料理するのも、こんなにゆったりとした時間を過ごすのは初めてでした。小さい子がいるのに受け入れて下さってありがとうございました。ぜひまた参加したいです。
- ・今回、初めて参加させて頂きました。ふだん、山も中で自然に触れることが少ないので、子供と一緒に楽しみました。また、機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。

45

③ 春(の野草)を楽しもう

- ・はじめて参加しました。今までにも調べたりしていましたが、あらためて認識できました。採ったものを使って食べるとは思ってなくて、どんなものができるのか不思議でしたが、とても美味しく食べることができました。また参加したいです。

・食べれるもの、食べれない毒があるから気をつけて。とか、しっかり教えてくれたのでよく分かった。皆で協力して美味しい料理ができた。とても楽しかったでの他の催しにも参加して自然とたくさん触れ合えたらいいなと思った。

・楽しかったです。野草の名前を覚えられる様に頑張ります。

- 5 ・天気も良く桜が満開の中、参加できて良かったです。先生の丁寧な野草の説明で山菜・野草の名前と植物が一致しました。名前は知っているが・・・そんな姿か・・・の状態でした。天ぷら・餃子・ピザへと変身して、とても美味しくいただきました。

10

2017年度事業経過一覧

月	実施日	活動名	場所
4	9	理事会/監査	
	22、23	ビオトープ	掘削作業
	29	総会	
	30	森の学舎整備	イヌマキとモクセイの剪定
2、3、5、6、7	草刈り、幼竹伐採、ecoスクール準備		
5	1、4	ビオトープ	取水作業
	14	ecoスクール	(開校)ネイチャーゲーム、麦刈り
	21	ビオトープ	ミニ田んぼ
	28	ecoスクール	(第2回)麦脱穀、大豆蒔き
6	3	ecoスクール準備	海水くみ
	4	ビオトープ	
	10、17	森の学舎整備、ビオトープ	草刈り、田植え
	25	ecoスクール	(第3回)塩づくり
7	15	エコフェスティバル 2017	イオンモール宮崎
	16	ecoスクール	第4回
	22	川をたのしく親しもう準備	
	23	川をたのしく親しもう	
8	10	ecoスクール準備	イカダ川下り
	11	ecoスクール	第5回
	14～16	森の学舎整備	簡易炭窯小屋修理、網戸作り
9	24	ecoスクール	第6回
10	8、9	森の学舎整備	草刈り大作戦
	15	ecoスクール	第7回
11	4、5	ecoスクール準備	麦畑作り
	12	ecoスクール	第8回
	26	木と遊ぼう！木に学ぼう！準備	
12	3	木と遊ぼう！木に学ぼう！	
2	18	ecoスクール	第9回
3	4	ecoスクール	閉校
	17	竹林の整備	妖精の森での竹伐採
	24	春の野草を楽しもう準備	
	25	春の野草を楽しもう	

※事務局（のみ）活動は一覧には未掲載

報告事項Ⅱ. 2017年度活動決算報告

2017年度 特定非営利活動に係る活動計算書
(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	41,000		正会員:8人×5,000、特別会員:1人×1,000 1人×5,000
賛助会員受取会費	5,000	46,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	211,831		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、森づくりフォーラム 他 宮崎県の最低賃金にて評価
ボランティア受入評価益	649,294	861,125	
3. 受取助成金等			
受取助成金		936,118	子どもゆめ基金、全労済
4. 事業収益			
自主事業収益		138,590	各プログラム参加費 他
5. その他収益			
雑収入		2,467	草刈り昼食夕食食材非会員負担、預金利息
経常収益計			1,984,300
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(給料手当・臨時雇賃金)	152,000		各プログラム 宮崎県の最低賃金にて評価
ボランティア評価費用	504,474		
人件費計	656,474		
(2)その他経費			
修繕費	0		各プログラム ecoスクールチラシ印刷(業者)、他事業はトナー代 各プログラム、ピオトープ 各プログラム、ピオトープ 各プログラム、ピオトープ、森の学舎整備 他 各プログラム
諸謝金	95,680		
印刷製本費	131,781		
旅費交通費	249,810		
通信運搬費	7,130		
消耗品費	347,344		
損害保険料	18,719		
その他経費計	850,464		
事業費計		1,506,938	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(給料手当・臨時雇賃金)	0		宮崎県の最低賃金にて評価
ボランティア評価費用	144,820		
人件費計	144,820		
(2)その他経費			
修繕費	27,869		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯 冷蔵庫 他 みやざき森づくりボランティア協議会 総会 印紙、印鑑証明 他 森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他 旧冷蔵庫廃棄費 他 チッパーシュレッダー2台、簡易炭窯
旅費交通費	0		
通信運搬費	34,453		
消耗品費	36,278		
諸会費	3,000		
会議費	5,907		
租税公課	1,500		
施設管理費	150,922		
雑費	11,244		
減価償却費	78,205		
その他経費計	349,378		
管理費計		494,198	
経常費用計			
当期正味財産増減額			△16,836
前期繰越正味財産額			1,677,042
次期繰越正味財産額			1,660,206

5 各プログラム:「四季をまるごと体験ecoスクール(ecoスクール)」「川をたのしく親しもう」「木と遊ぼう!木に学ぼう!」「春の野草を楽しもう」

2017年度 事業別活動計算書

科目	四季をまるごと体験ecoスクール	川をたのしく親しまう	木と遊ぶ！木に学ぶ！	春の野草をたのしまう	ビオトープ	森の学舎整備	その他(エコフェスティバル)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益										
1. 受取会費										
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	41,000	41,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄付金										
受取寄付金	--	--	--	--	--	--	--	--	211,831	211,831
ボランティア受入評価益	151,084	45,325	34,639	17,319	87,703	168,404	7,370	504,474	144,820	649,294
3. 受取助成金等										
受取助成金	391,106	122,000	94,495	81,000	247,517	--	--	936,118	--	936,118
4. 事業収益										
自主事業収益	65,000	17,600	13,200	27,600	--	--	14,090	137,490	1,100	138,590
5. その他収益										
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	--	2,467	2,467
経常収益計	607,190	184,925	142,334	125,919	335,220	168,404	21,460	1,578,082	406,218	1,984,300
II 経常費用										
(1)人件費										
賃金	94,000	16,000	26,000	11,000	5,000	0	0	152,000	0	152,000
ボランティア評価費用	151,084	45,325	34,639	17,319	87,703	168,404	7,370	504,474	144,820	649,294
人件費計	245,084	61,325	60,639	28,319	92,703	168,404	7,370	656,474	144,820	801,294
(2)その他経費										
修繕費	--	--	--	--	--	0	--	0	27,869	27,869
諸謝金	43,000	14,000	3,000	13,000	22,680	--	--	95,680	0	95,680
印刷製本費	60,501	23,760	23,760	23,760	0	--	--	131,781	0	131,781
Webページ運営費	0	0	0	0	0	--	--	0	0	0
旅費交通費	124,400	19,450	16,600	21,350	65,400	--	2,610	249,810	0	249,810
通信運搬費	3,380	360	360	360	2,670	--	--	7,130	34,453	41,583
消耗品費	101,294	47,163	18,668	17,035	152,530	9,766	888	347,344	36,278	383,622
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	--	5,907	5,907
研修費	--	--	--	--	--	--	--	--	0	0
損害保険料	13,469	2,000	1,000	2,250	0	0	--	18,719	0	18,719
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	150,922	150,922
雑費	--	--	--	--	--	--	--	--	11,244	11,244
減価償却費	--	--	--	--	--	--	--	--	78,205	78,205
その他経費計	346,044	106,733	63,388	77,755	243,280	9,766	3,498	850,464	349,378	1,199,842
経常費用計	591,128	168,058	124,027	106,074	335,983	178,170	10,868	1,506,938	494,198	2,001,136
当期経常増減額	16,062	16,867	18,307	19,845	△ 763	△ 9,766	10,592	71,144	△ 87,980	△ 16,836

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用について

事業部門は1日一人の作業ボランティア参加を3H～5H程度とし、宮崎県の最低賃金にて計上している。

管理部門と事業部門の事務処理は実時間で、宮崎県の最低賃金にて計上している。



《参考》

2017年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	87,000		
賛助会員受取会費	10,000	97,000	正会員:17人×5,000、特別会員:2人×1,000 2人×5,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	137,000		
ボランティア受入評価益	--	137,000	イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄付 他
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,082,517	子どもゆめ基金、全労済地域貢献助成
4. 事業収益			
自主事業収益		186,400	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		4,400	損害保険返戻、預金利息
経常収益計			1,507,317
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	232,000		
ボランティア評価費用	--		
人件費計	232,000		ecoスクール、川をたのしく、木と遊ぼう、春の野草を
(2)その他経費			
諸謝金	105,000		ecoスクール、春の野草を
印刷製本費	107,300		ecoスクールチラシ印刷(業者)、他事業はトナー代
旅費交通費	312,450		ecoスクール他事業すべて
通信運搬費	5,220		同上
消耗品費	495,027		同上
損害保険料	38,120		ecoスクール、川をたのしく、木と遊ぼう、春の野草を
その他経費計	1,063,117		
事業費計		1,295,117	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
ボランティア評価費用	--		
人件費計	0		
(2)その他経費			
修繕費	47,000		プリンター保守料 他
印刷製本費	0		
旅費交通費	7,000		森づくりボランティア協議会の総会出席
通信運搬費	40,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	15,000		文房具、お茶代 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,000		総会
研修費	5,000		各種研修、会員プログラム参加充当
損害保険料	0		
租税公課	1,000		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	170,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	0		
減価償却費	78,206		チッパ [®] -シュレッダー2台、簡易炭窯
その他経費計	369,206		
管理費計		369,206	
経常費用計			1,664,323
当期正味財産増減額			△ 157,006
前期繰越正味財産額			1,677,042
次期繰越正味財産額			1,520,036
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

2017年度 特定非営利活動に係る貸借対照表（2018年3月31日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	194,726	
普通預金	964,247	
未収金	472,106	
流動資産合計		1,631,079
2 固定資産		
備品	2,085,000	
減価償却累計額	△2,052,873	32,127
固定資産合計		32,127
資産合計		1,663,206
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	3,000	
流動負債合計		3,000
負債合計		3,000
III 正味財産の部		
基本金	1,677,042	
当期正味財産増加額(減少額)	△16,836	
正味財産合計		1,660,206
負債及び正味財産合計		1,663,206

2017年度 特定非営利活動に係る財産目録（2018年3月31日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	現金手元有高	194,726
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	765,169
普通預金	九州ろうきん延岡支店	199,078
未収金	子どもゆめ基金	472,106
流動資産合計		1,631,079
2 固定資産		
機械及び装置	子供用シュレッター - (新タイプCSE50-W) 253,050 子供用シュレッター - (大橋GS121GB) 1,330,350 耕うん機 (HONDA E アンタ) 102,600 簡易炭窯 (テキT105型) 399,000	
減価償却累計額	△2,052,873	32,127
固定資産合計		32,127
資産合計		1,663,206
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	みやざき森づくりボランティア協議会会費	3,000
流動負債合計		3,000
負債合計		3,000
正味財産(注)		1,660,206

(注) 正味財産は「資本合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監事

黒木 伸光



報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2017年4月1日から2018年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2018年4月7日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 黒木 伸光 

5



木と遊ぼう！木に学ぼう！

議案Ⅰ. 2018年度活動方針(案)

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) 竹を活用した里山体験(仮称) 森でエコクッキングとドングリ苗床

10 竹は、日本各地に広く分布し、昔から身近な資材として生活に利用されてきました。しかし、近年、人々の生活が洋風化したこと、プラスチック等代替材が登場したこと、安価な輸入品が増加したことなどにより、竹材、タケノコの国内生産量は減少傾向にあります。そのため、国内には管理不足の竹林が多く見られるようになりました。子どもの森でも、森の学舎グラウンド上斜面の荒廃した竹林の整備を進めています。

15 竹はバイオマス資源であり、その利活用の推進は、低炭素社会の実現に貢献することを、エコクッキングなどを通して学習します。

また、ドングリ苗木の育て方を通して、樹木が、私たちの生活において排出された二酸化炭素を吸収し、私たちの生活に必要な酸素を供給してくれていること理解し、山に植樹するための苗木を自宅にドングリから育てます。参加者が育てたドングリの苗木は、数年後に地域の山への植樹へと発展させる予定です。

① 竹の飯ごうと器や箸作り：竹で食器等(飯ごう・食器・箸・鍋)を、参加者自らが作る。

20 ② 竹の食器等を使ったクッキング：参加者が作った竹飯ごうでの炊飯と竹鍋でのおかず作りを行なう。

③ 豆腐作り：ecoスクールの塩作りでの副産物であるニガリを利用して豆腐を作る。作った豆腐は竹の器に盛り付ける。

25 ④ ドングリポット：竹を玉きりにして節を利用した竹のポットに、腐葉土を入れてドングリを植える。竹のポットは参加者が自宅に持ち帰り苗木に育て山へ戻す。

・開催月：12月

・参加数：10家族25人(子ども過半数以上)

・場所：森の学舎

・助成：子どもゆめ基金(2次募集申請予定)

30 ※助成金が不採択等財政的な裏付けがない場合は、その実施を理事会で検討する。

(2) 春の野草を活用した里山体験(春を楽しもう)

35 春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識と認識してもらいます。

40 ① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮する。

② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。参加者の五感を使った活動とするために、受身の受講とせず、スタッフと一緒に調理をして交流を図り、印象を強く残すように配慮する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮する。

45

・開催月：2019年3月

・参加数：10家族25人(子ども過半数以上)

・場所：森の学舎

・助成：子どもゆめ基金

50 ・外部講師：成迫平五郎氏(野草観察)

2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

(1) 妖精の森

- 5 2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、目立たない範囲で種々の活動が必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

10

(1) 子どもと保護者の環境教室（8期四季をまるごと体験ecoスクール）

- 15 地域の小学生及び保護者に対して、パン作りによる食と環境を切り口に、同一の参加者が、年間（四季）を通して、四季折々の自然環境を遊びや観察等から学び、麦栽培等の農業体験、そして農業体験を通して自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。他に、自然環境を遊びや観察、農業等の原体験を通して、中山間地域である里山の自然環境の大切さと保全の必要性を学習する下記のプログラムを提供します。

- 20 ① ネイチャーゲーム：身近な植物・生き物・森林について五感を通して自然の大切さを知る。また、初対面の参加者同士が早く仲良くなるためのきっかけをつくる。
- 25 ② 麦刈り：前年度に、麦蒔きをして育てた麦の刈り取りをする。刈り取った麦は、はさ掛けをして乾燥させた後、脱穀して唐箕で完全に実ともみを分離させる。
- ③ ダンボール・コンポスト：家庭の生ごみから、麦畑の堆肥を作る。
- 30 ④ 塩作り：海水を釜戸で沸かして塩とニガリを採取する。
- ⑤ イカダ作り：コンパネとペットボトルや竹でイカダを作る。作ったイカダで川を下りながら川の清掃をする。
- ⑥ 生きもの観察：川の生きもの観察を通して、人間が自然を壊すことなく多くの生物のいのちをみんなでつないでいこうという想いをつける。また、ビオトープでの生きもの観察も各プログラムの合間に行う。
- 35 ⑦ 麦蒔き：収穫した小麦を麦種として畑に蒔き、麦芽がでたら麦踏を体験する。麦畑で育った小麦は次年度のecoスクールで使用する。
- ⑧ 環境学習：木の二酸化炭素吸収量と人間一人が吐き出す二酸化炭素の量や家庭で使う電気料などから発生する二酸化炭素の量を比較して、樹木が二酸化炭素を吸収してくれる大切な存在であることを学ぶ。
- 40 ⑨ ドングリ工作：小枝や葉っぱ、ドングリ等の自然素材で、オリジナルのクラフト作品を作る。自然にある物で十分遊ぶことができることで自然への愛着を促す。
- ⑩ 天然酵母：パンの材料である天然酵母を身近な果物で作る。
- ⑪ 小麦粉作り：麦刈り脱穀した麦を、石臼で挽いて小麦粉にする。
- 45 ⑫ パン作り：石臼で挽いた小麦粉・手作り塩・天然酵母・手作りバターを使い石釜でパンを焼く。
- ⑬ 文集：参加者及びスタッフで書いた感想文と活動写真で文集を制作する。

・開催月：5月～翌年3月（計9回）

45 ・参加数：30人（県北地域の小学生4年生から6年生と保護者）

・場所：森の学舎

・助成：子どもゆめ基金

・外部講師：山下みよ子氏（ダンボールコンポスト）※宮崎ダンボールネットコンポストワーク協会

(2) 川を活用した自然体験交流（川をたのしく親しもう）

50

ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し自然と自分が一体である、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ自然や里山等の大切さを、体験を通して学びます。お楽しみとして、竹レールでの流しそうめんをお昼ご飯とします。

- 5 ① ネイチャーゲーム・川あそび：川をたのしみ親しむために、ネイチャーゲームを川で実施し、川の自然と人間生活が密接に関係していることを学習する。川の音を心で感じ取るネイチャーゲームを実施する。参加者を3グループに分けて、それぞれのグループに指導者がつく。各グループが、異なる川あそび（笹舟流し・川を覗く・川虫を探すを予定）を時間単位でローテーションしながら体験する。
- 10 ② 川の生きもの探し：石に付いている川虫を網ですくい、箱メガネを使ってエビや魚を網で捕ったりする。岸辺に川の生き物のパネルを用意して、すくった川虫や捕ったエビや魚の名前を確認する。この体験を通して自然の豊かさや大切さを実感してもらう。このプログラムでは、ライフジャケット着用とスタッフの安全確保が必要となる。
- 15 ③ アメンボウの旅：アメンボウのように手足を大きく広げ、川の上流から下流へ流れる。この体験を通して、川（水）の楽しさと親しみをもってもらう。このプログラムでも、ライフジャケット着用とスタッフの安全確保が必要となる。
- ④ 流しそうめん：川での活動が終わり着替えをして、流しそうめんを昼食とする。

- ・開催月：7月
- 20 ・参加数：10家族30人（子ども過半数以上）
- ・場所：森の学舎と五十鈴川
- ・助成：子どもゆめ基金
- ・雨天時：川で予定していたプログラムを一部変更して室内中心で実施する。

25 (3) 森を活用した環境学習（（仮称）ボクは昆虫カメラマン）

身近な昆虫や植物について興味・関心をもって追究する活動を写真撮影と昆虫説明を通して、昆虫の成長過程と体のつくりを理解し、生物を愛護する態度を育て、昆虫の成長のきまりや体のつくりについての見方や考え方をもちることができます。そうすることで、自然を愛する心や環境保全への関心を高めることにつなげることが期待できます。

- 30 ① 昆虫撮影：森の学舎グラウンドで、昆虫を観察（昆虫の生態や名前の由来の説明）をして、参加者が持参したデジタルカメラで昆虫写真を撮る。昆虫の写真を撮る際には、写真写りの良い構図を考えるはずであり、そのことがしっかりと昆虫を観察することにつながる。
- 35 ② お気に入りの一枚：参加者の撮った昆虫の写真の中で一番気に入った写真を決めて、プリンタで印刷して簡易なフォトフレームに収めて持ち帰ってもらう。一番気に入った写真については、指導者が個別評論と総評をおこなう。
- ③ 昆虫写真の見本として外部講師で新開孝さんの作品をパネル展示する。

- ・開催月：10月
- 40 ・参加数：子ども10人以上
- ・場所：森の学舎
- ・助成：子どもゆめ基金2次募集申請予定
ビジネスパーソンボランティア活動助成申請予定
- ・外部講師：新開孝氏※昆虫写真家
- 45 ※助成金が不採択等財政的な裏付けがない場合は、その実施を理事会で検討する。

4. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

- 地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきています。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つ
- 50

け方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築することの必要性があります。

5 現在、事務局が熊本県にあるため、県内でのコーディネート事業等への取り組みが難しい状況にあります。5

5. 活動の情報発信・啓発のための事業

10 活動を開催日前に告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

(1) Webサイトの運営

15 子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、Webページでは発信しづらい細かい情報は、facebookで発信していきます。

(2) 機関紙の発行

20 子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信15号」を発行することで情報発信をします。

(3) 事業案内チラシの作成

25 宮崎県や関係行政機関等の後援を申請して、5月中に各事業の参加者募集チラシを作成しておきます。それぞれの事業を開催する3ヶ月前までに、新聞社へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布を行います。

6. その他目的を達成するために必要な事業

(1) ビオトープづくり

30 四季をまるごと体験ecoスクールでは、水辺のいきもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行っています。今後更に、自然環境の観察等に厚みを持たせるために、水辺の自然環境の観察を実施したいと思っています。

35 ビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっていきます。また、ビオトープのミニ田んぼで、もち米を育てることにします。水辺に生息する草や虫・魚は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

ビオトープの様子は、WebページやFacebook、機関誌で紹介していきます。

(2) 学舎キャンプ

40 会員と日頃お世話になっている活動サポーター（協力者）の親睦を図るため、森の学舎で一泊二日のお楽しみ会を開催します。

竹を活用してのエコクッキング、星座観察、雑木林の視察等の内容が考えられますが、その詳細については、今後理事会等で決定したいと思います。

45 ・開催月：9月

・場所：森の学舎

(3) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

50 2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のキャンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や

児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行ってきました。そして、2009年度は、セブン-イレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のキャンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

5 行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目をされています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

10 2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしたいと思えます。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしていきます。初夏と秋にグラウンドと周辺の草刈りを実施します。他に、破損した設備等があれば修繕などを行います。

15 ・グラウンドと周辺の草刈り実施月：6月、8月、10月、他必要に応じて

(4) 子どもの森が加盟する団体

20 今年も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。

今年度も、可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

25 7. 助成について

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	四季をまるごと体験ecoスクール	688千円（申請） （確定）501千円
		川をたのしく親しもう	154千円（申請） （確定）143千円
		春を楽しもう	97千円（申請） （確定）87千円
子どもゆめ基金2次募集申請予定 ビジネスパーソンのボランティア活動助成申請予定 （大同生命厚生事業団）		ボクは昆虫カメラマン	118千円 （申請予定）
子どもゆめ基金2次募集申請予定		森でエコッキングとドングリ苗床	100千円 （申請予定）



春（の野草）を楽しもう

議案Ⅱ. 2018年度活動計画書(案)

2018年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	93,000		正会員:18人×5,000、特別会員:3人×1,000 1人×5,000
賛助会員受取会費	5,000	98,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	134,000		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄付 他
ボランティア受入評価益	--	134,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金		949,000	子どもゆめ基金
4. 事業収益			
自主事業収益		175,700	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		500	預金利息 他
経常収益計			1,357,200
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	259,000		各プログラム
ボランティア評価費用	--		
人件費計	259,000		
(2)その他経費			
諸謝金	62,370		各プログラム
印刷製本費	129,800		ecoスクールチラシ印刷(業者)、他事業はトナー代
旅費交通費	262,900		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	2,700		同上
消耗品費	367,110		同上
損害保険料	42,720		各プログラム
その他経費計	867,600		
事業費計		1,126,600	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
ボランティア評価費用	--		
人件費計	0		
(2)その他経費			
修繕費	27,900		プリンター保守料 他
旅費交通費	7,000		森づくりボランティア協議会の総会出席 他
通信運搬費	35,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	15,000		文房具、お茶代 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	10,000		総会、学舎キャンプ
研修費	5,000		各種研修、会員プログラム参加充当
租税公課	1,000		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	150,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	0		
減価償却費	27,063		チャパージュレッター2台
その他経費計	280,963		
管理費計		280,963	
経常費用計			1,407,563
当期正味財産増減額			△ 50,363
前期繰越正味財産額			1,660,206
次期繰越正味財産額			1,609,843
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

各プログラムとは下記の5プログラム

「四季をまるごと体験ecoスクール(ecoスクール)」「川をたのしく親しもう」「ホグは昆虫がマツ」「森でエコッキングとドングリ苗床」「春を楽しもう」

- 5 ※会費 正会員：5,000円(ただし特別会員は1,000円) 賛助会員：5,000円
特別会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。
※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。
- 10

2018年度事業別活動計画書(案)

科目	四季をまるごと体験ecoスクール	川をたのしく親しもう	ボクは昆虫カメラマン	森でエコクッキングとドングリ苗床	春を楽しもう	森の学舎整備(ヒートアップと竹林整備を含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	93,000	93,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄付金									0
受取寄付金	--	--	--	--	--	--	--	134,000	134,000
3. 受取助成金等									0
受取助成金	501,000	143,000	118,000	100,000	87,000	0	949,000	--	949,000
4. 事業収益									0
自主事業収益	105,000	21,600	12,000	18,000	18,000	0	174,600	1,100	175,700
5. その他収益									0
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	500	500
経常収益計	606,000	164,600	130,000	118,000	105,000	0	1,123,600	233,600	1,357,200
II 経常費用									
(1)人件費									
賞金	150,000	35,000	25,000	29,000	20,000	0	259,000	0	259,000
人件費計	150,000	35,000	25,000	29,000	20,000	0	259,000	0	259,000
(2)その他経費									
修繕費	--	--	--	--	--	--	--	27,900	27,900
諸謝金	22,370	0	30,000	0	10,000		62,370	0	62,370
印刷製本費	77,400	13,100	13,100	13,100	13,100	0	129,800	0	129,800
旅費交通費	137,550	38,500	34,100	26,250	26,500	0	262,900	7,000	269,900
通信運搬費	1,260	360	360	360	360	0	2,700	35,000	37,700
消耗品費	182,020	60,520	20,240	46,530	17,800	40,000	367,110	15,000	382,110
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	10,000	10,000
研修費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
損害保険料	34,020	3,060	1,260	1,800	2,580	0	42,720	0	42,720
租税公課	--	--	--	--	--	--	0	1,000	1,000
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	150,000	150,000
雑費	--	--	--	--	--	--	0	0	0
減価償却費	--	--	--	--	--	--	--	27,063	27,063
その他経費計	454,620	115,540	99,060	88,040	70,340	40,000	867,600	280,963	1,148,563
経常費用計	604,620	150,540	124,060	117,040	90,340	40,000	1,126,600	280,963	1,407,563
当期経常増減額	1,380	14,060	5,940	960	14,660	△ 40,000	△ 3,000	△ 47,363	△ 50,363

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用については、活動計画書には反映させませんが、活動計算書(決算報告)では計上させます。

※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、各プログラム(四季をまるごと体験ecoスクール、川をたのしく親しもう、ボクは昆虫カメラマン、森でエコクッキングとドングリ苗床、春を楽しもう)以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任をお願いします。(ご自身の加入している損害保険での対応をお願いします)

5

議案Ⅲ. 定款変更(案)

法改正(平成29年4月施行)等による定款変更

新	旧
<p>(公告の方法)</p> <p>第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行なう。</p> <p><u>ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行なう。</u></p>	<p>(公告の方法)</p> <p>第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行なう。</p>

10

※毎年度貸借対照表の公告のために相当額の官報掲載料の費用負担が生じるため。

2018(平成30)年度予定

2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31									
4月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木							
								理事会/監査														総会																		
5月	火	水	祝	祝	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火				
			学舎整備→6																	①ecoスクール						②ecoスクール														
6月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木					
			学舎草刈→3																																					
7月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
8月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
9月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
10月	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
11月	木	金	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
12月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
2019 1月	祝	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
2月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
3月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
4月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	

川をたのしく親しもう：川を活用した自然体験交流 ポクは昆虫カメラマン：森を活用した環境学習 森でエコクッキングとビュッティング苗床：竹を活用した里山体験 春を楽しもう：春の野草を活用した里山体験
 ecoスクール：子どもと保護者の環境教室 学舎キャンパス：会員と活動サポーターの親睦 学舎草刈：森の学舎と周辺の草刈り 学舎整備：森の学舎の修繕等整備
 その他(事務局)に：Webサイトとfacebookの運営、子どもの森通信の発行(6月)、各プログラムの参加者募集



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-95-7800 携帯：080-2696-5180

FAX 0982-63-0009

<http://www.kodomonori.info>

office09@kodomonori.info

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonori>

協働創出市サイト <http://kyoudou.info>